

2023年

# 地域連携年報

第十号

滋賀短期大学  
地域連携教育  
研究センター

SHIGA JUNIOR COLLEGE  
COLLABORATIVE  
RESEARCH & COMMUNITY  
COOPERATION CENTER



# 目次

1. 地域連携教育研究センターの体制	1
2. 調査研究プロジェクト	
(1) メンタルヘルスクエアを必要とする学生に求められる非専門家の支援姿勢	2
(2) 大津市無形民俗文化財「大津絵踊り」の3Dデジタル化プロジェクト	3
(3) 国際シンポジウム「中近世におけるベトナムと東アジア諸国間の文化・文学交流」	4
(4) オーストラリア音楽試験システムに関する研究	5
3. 地域との連携による教育研究活動	
(1) 京都信用金庫膳所支店での学外販売	6
(2) ひらのまつり 2023	7
(3) ヘキセンハウスの制作	8
4. 地域に向けた公開講座	
(1) 守山すみれ講座	
1) ストレッチで癒されて！	9
2) からだと病気のしくみ	10
3) ホスピタリティマインドを日常に	11
4) 寺内町金森～中世の宗教と共同体～	12
5) 音楽会を楽しもう～みんなの好きな歌～	13
(2) 公開講座	
1) 高校生のためのお菓子講座～お菓子の基礎を学ぼう～	14
2) 子ども陶芸教室～お皿とカップに陶画を描こう～	15
3) 子どもプログラミング教室～自動運転でクルマを走らせよう～	16
4) お菓子の講座～ドイツのお菓子～	17
5) アスリートのための食事講座	18

---

---

## 5. 高大連携事業

- (1) 滋賀県教育委員会の連続講座……………19
- (2) 滋賀県等の高等学校への出前授業……………19
- (3) 大学見学受け入れ時の講座……………21
- (4) 公開講座（高）……………21

## ○資料

- 新聞などに掲載された記事（令和5年1月～12月まで）……………22
-

# 1. 地域連携教育研究センターの体制

## 1. 目的

地域連携教育研究センターは、本学の研究活動の向上に関わる支援とともに、地域連携に関わる教育研究の推進等を目的とする。

## 2. 実施体制

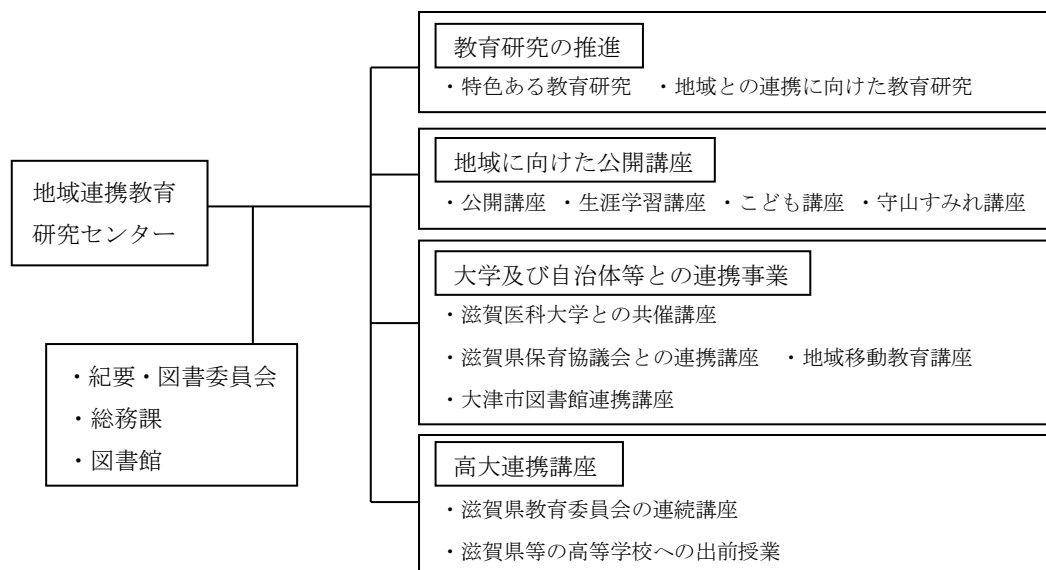
### (1) 実施組織について

地域連携教育研究センターは、上記の目的を達成するため、センター長、地域連携教育研究センター員、総務課及び図書館職員によって組織される。

地域連携教育研究センターの構成（2023年度）

氏名	所属・職名
深尾 秀一	幼児教育保育教授 ・ センター長
豊岡 真莉	生活学科特任助教
齋藤 尚志	幼児教育保育学科准教授
田中 裕之	ビジネスコミュニケーション学科教授
伊澤 亮介	ビジネスコミュニケーション学科講師
松村 都子	地域連携教育研究センター准教授
中野 英樹	事務局長
太田美穂子	事務局次長 兼 総務課長
山本眞砂子	総務課係長 兼 地域連携教育研究センター係長

### (2) 実施体制



## 2. 調査研究プロジェクト

---

### (1) メンタルヘルスケアを必要とする学生に求められる非専門家の支援姿勢

生活学科 笹倉千佳弘

#### 1. はじめに

本調査研究は、2022年度調査研究プロジェクト「高大連携を視野に入れたメンタルヘルスケアを必要とする大学生への支援の可能性」を発展させたものである。2022年度調査研究プロジェクトから明らかになったことは、どのような支援をするのかを決める際、①「当事者の声を尊重する」②「当事者の困りごとの背景まで視野に入れる」という2点の重要性であった。この結果をふまえ、2023年度研究調査プロジェクトの目的は、メンタルヘルスケアを必要とする学生に求められている非専門家の支援姿勢を明らかにすることである。

#### 2. 活動内容

昨年度に引き続いて、精神科病院における閉鎖病棟開放の草分け的存在である山本昌知精神科医にインタビュー調査を実施した。また同医師が主催する愚痴庵（主として精神障害者が集まる居場所）への参与観察を実施し、参加者へのインタビュー調査も試みた。その結果、次のような7点にわたる支援姿勢の重要性が明らかになった。

①「当事者への温かい関心」②「当事者の主観的事実重視」③「当事者との関係をとおした自己省察」④「当事者に向けた自己開示」⑤「当事者との協働」⑥「当事者にかかわる周りの人との協働」⑦「当事者の主体性尊重」。

#### 3. 総括

7点にわたる支援姿勢は、次のように構造化される。①「当事者への温かい関心」と②「当事者の主観的事実重視」には、その人のあるがままを尊重するという共通の行動基盤がある。③「当事者との関係をとおした自己省察」と④「当事者に向けた自己開示」には、「ゆらぎ」を自覚し表現するという共通の行動基盤がある。⑤「当事者との協働」と⑥「当事者にかかわる周りの人との協働」には、他者の力を借りることを厭わないという共通の行動基盤がある。そして、①～⑥の支援姿勢を貫いているのが⑦「当事者の主体性尊重」である。

支援は、支援する側と支援される側の相互行為として表現される。したがって支援における当事者は、支援される側だけでなく支援する側も含まれる。このように考えると、「当事者の主体性尊重」には、支援する側と支援される側を問わない、さらに踏み込んで言えば、自他の区別を問わない、人間というものを信頼するという行動基盤があると言える。

本調査研究では、山本昌知精神科医から、地域の人が当事者と一緒にお茶を飲む、地域の人が当事者のことを話題にする、というようなことが当事者の支えになるという指摘があった。そこで地域の人の声をすくいあげるため、愚痴庵を含む地域の人たちへのインタビュー調査を計画し、現在、その一部を実施し始めたところである。

## (2) 大津市無形民俗文化財「大津絵踊り」の3Dデジタル化プロジェクト

デジタルライフビジネス学科 小山内幸治・小笠原寛夫

### 1. はじめに

大津市無形民俗文化財「大津絵踊り」は、三味線と謡いに合わせて踊るもので、大津花街で江戸後期発生し、幕末から明治にかけて全国的に流行した「大津絵節」に、踊りを付けたものである。かつては、大津の名物であった。「大津絵踊り」は、10種の「面」と、5種の「小道具」を用いて行われるのが特徴である。この「大津絵踊り」を保存するために、昭和63年から、保存会が立ち上げられ保存に取り組んでいるが、後継者が十分には育っておらず、未来に向けての保存が課題となっている。本プロジェクトは、踊りをモーションキャプチャーし、デジタル化により3D空間に踊りを再現することで、デジタルによる「大津絵踊り」の恒久的な保存に取り組むことを目的としている。プロジェクトには、デジタルライフビジネス学科の学生が積極的に参加している。また、この活動は、本学学長裁量経費および2023環びわ・大学地域連携課題解決支援事業の助成を受けている。

### 2. 活動内容

本プロジェクトは、以下のような手順で行われる。

①「大津絵踊り保存会」に協力を得て、大津絵踊りを多角的にビデオ撮影する。②ビデオ映像をもとに、骨格検出、モーションキャプチャーを行う。③人物の3Dモデルを作成④キャプチャーデータをもとにUnity空間に、上記3Dモデルで動作のみを再現⑤大津絵踊りで使う「面」の3Dモデルを作成⑥3Dモデルにテクスチャーと面の貼り付け⑦動作確認、修正⑧インターネット上で公開、広報を行う。今年度は、前述の①と②および⑤に取り組んだ。

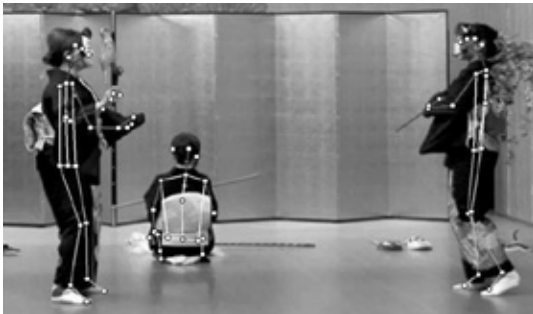


写真1 骨格検出とモーションキャプチャー



写真2 「面（釣鐘弁慶）」の3Dデータ化

### 3. 総括

これまでの成果としてはビデオから骨格検出し、モーションキャプチャー化することが可能であること、「面」や「小道具」の3Dデータ化も可能であることが確かめられたことが挙げられる。来年度は、モーションキャプチャーの精緻化を行い、それをもとに、3Dモデルで空間上に「大津絵踊り」を再現することを目指している。また、「面」の傷みも見られることから、3D化した「面」のデータから、3Dプリンタで「面」を作成することに取り組む予定である。

---

---

### (3) 国際シンポジウム「中近世におけるベトナムと東アジア諸国間の文化・文学交流」

ビジネスコミュニケーション学科 伊澤 亮介

#### 1. はじめに

この度は、学長裁量経費Ⅱ型【研究推進経費】の2) 発展的  
高度化に関わる教育研究の推進経費のうち、1 国際学会等にお  
ける発表への支援、をいただき、ベトナムのハノイ市にあるタ  
ンロン大学で行われた国際シンポジウム「中世におけるベトナム  
と東アジア諸国間の文化・文学交流」(ベトナム語: Hội thảo  
Quốc tế: Giao lưu văn hóa – văn học Việt Nam với các nước Đông Á  
thời trung – cận đại)に参加し、二つのテーマについて発表した。



#### 2. 活動内容

上記の国際シンポジウムにおける発表テーマ及びその内容は以下のとおりである。なお、いずれ  
の発表も筆者がベトナム語で行った。発表1：大阪大学外国語学部のファン・ティ・ミ・ロアン講  
師との共同発表である“*Thuận lợi và khó khăn khi dịch Văn tế nghĩa sĩ Cần Giuộc của Nguyễn Đình Chiểu*



*sang tiếng Nhật*” (日本語訳：漢語起源語の邦訳におけるい  
くつかの課題：*Văn tế nghĩa sĩ Cần Giuộc* (カンズオックの義  
士を祭る文)の日本語訳作成作業を通じての気づき)では、  
19世紀の字喃(チュノム)詩の日本語訳を通じて気づいた  
課題を発表した。筆者は主に、民族文字である字喃の翻音  
とロアン講師が行った日本語訳の修正を担当した。発表  
2：単独で発表した“*Khảo sát điển cố văn học trong tác  
phẩm “Chàng Sơn di lục [長山遺禄]*” (日本語訳：民間劇台本

『長山遺禄』の演目における典故の引用状況の比較)では、昨年度提出した博士論文でも扱った字喃  
で書かれた民間劇台本『長山遺禄』の内容について、その元となった中国の史書、小説からの引用  
状況を比較し、その作品のベトナムにおける受容のされ方と深度について発表した。

#### 3. 総括

発表では、各地から集まった多くの研究者からの貴重な意見を聞くことができたいへん有意義  
であった。また、発表以外の場においても、ベトナム内外の研究者、大学関係者と交流することが  
でき、当初の目的を達することができたと思う。改めて、学長裁量経費という形で渡航費及び宿泊経  
費を負担していただいたことに感謝したい。



## (4) オーストラリア音楽試験システムに関する研究

幼児教育保育学科 松井 典子

### 1. はじめに

オーストラリアでは、1918年に学習者の達成度を段階的に評価する目的のために **Australian Music Examinations Board** (以下 AMEB) 認定の全州共通のグレード試験システムが確立された。本研究では、オーストラリアにおける広い枠組みでの文化政策の1つとして AMEB の音楽試験システムに焦点を当てる。研究では、全州に普及した音楽試験システム (AMEB) 設立の経緯や歴史的経緯、そしてこのシステムが全土に定着した背景について、19世紀末から20世紀初頭のオーストラリアの社会と音楽試験システムの関係性に着目し、考察する。

### 2. 活動内容

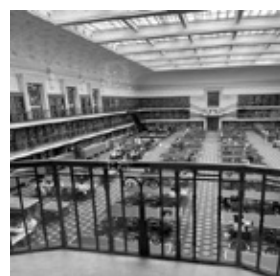
2023年6月に第21回日本音楽表現学会 (平安大会) において AMEB の音楽試験システムをテーマに口頭発表を行なった。AMEB 設立時のシラバスやシラバス内容の変遷を調査するため、8月末に5日間シドニーに滞在し、文献調査を実施した。現地調査初日には、**Australian Music Centre** (以下 AMC) を訪問した。AMC は、オーストラリアの約850人のアーティストによる30,000点以上のアイテム (自筆譜を含む楽譜、録音、研究論文、カタログ、教育教材など) を所蔵している。2002年よりデジタルアーカイブ化が推進され、オンラインでもアクセスできるようになった。AMC では、絶版書籍や自筆譜などを閲覧および複写させていただいた。

2日目から5日目は、**State Library of New South Wales** (ニューサウスウェールズ州立図書館) へ訪れ、AMEB の1919年から1986年までのシラバス等の資料収集を行った。また、図書館内の **Special Collections** (特別所蔵) では、研究対象者の手紙、AMEB や地元の音楽協会の議事録など、貴重な一次資料に接する機会を得た。

Australian Music Centre



State Library of New South Wales(Special Collections area)



### 3. 総括

本調査では、渡航前から現地での調査に至るまで、AMC や図書館司書から多くの有用な文献情報を提供していただき、深く感謝している。今後は、収集した資料を通じて、オーストラリアが経験した社会変化と AMEB がその変化にどのように適応してきたかについて精緻に分析していく。

なお、本研究は令和5年度の学長裁量経費により支援を受けたことを付記し、謝意を表す。



## 3. 地域との連携による教育研究活動

### (1) 京都信用金庫膳所支店での学外販売

生活学科 久保 晶路

#### 1. はじめに

9月6日(水) 京阪膳所本町・膳所神社前にある「京都信用金庫膳所支店」で販売させて頂いた。「膳所の地域を、みんなでもっと盛り上げたい!」「地域の魅力溢れるお店を、もっと知ってほしい!」という膳所支店様の熱い思いから始まった不定期のイベントで、今までワークショップや野菜の販売などが行われている。店頭をお借りし、今年初めての学外販売を行った。

#### 2. 活動内容

今回のイベントでは「フィナンシュ」や「抹茶のクッキー」など焼き菓子5種、「ベーグル」3種と「イーストドーナツ」を販売した。地域密着の販売だったため、作成する種類や製造量などが難しかったが、学生が作りたいもの、食べてほしいものを考え準備をした。

販売するメニューはSNSで事前に告知し、銀行にも写真付きポスターを掲示して頂き、SNSを利用されていない方にも目で見えてわかりやすいように工夫をした。

当日は雨の中、地域の方々や銀行を利用される方など、たくさんの方が列を作って下さり予想以上の早さで完売となった。

#### 3. まとめ

地域を盛り上げよう!という素敵な思いから、ベーカリー塾にお声がけ頂けたことをすごく嬉しく思う。夏休み期間ということもあり、集中授業や帰省が重なり、参加出来る人数が少なかった。初めてのサークル活動の学生(1回生)も多かったが、慣れない作業ながらも仕込みや準備に真剣に取り組む姿が見られた。

地域の方々との交流は、普段ではなかなか出来ないことであり、今後もベーカリー塾の活動で地域の方々に喜んでいただけるよう、取り組んでいきたい。



---

---

## (2) ひらのまつり 2023

生活学科 久保 晶路

### 1. はじめに

10月28日～29日の2日間、大津市におの浜なぎさ公園にて、平野学区まちづくり協議会・琵琶湖畔利活用運営委員会主催のハロウィンイベント「ひらのまつり 2023」が開催された。平野学区を中心とした周辺の飲食店や企業、学校などが参加している。昨年に引き続き、2度目の参加となった。

### 2. 活動内容

季節の食材を使用した「かぼちゃのマドレーヌ」をはじめ、「スノーボールクッキー」や「シナモンクッキー」など、幅広い年齢層から人気のある焼き菓子、パンを含む計9種類を販売した。

パンの販売は2日目(29日)限りとした。パンにも季節の食材であるさつまいもやりんご、きのこを使用し、当日の早朝から作業に取り掛かり、焼き立てを提供する事が出来た。

イベント当日初日は小雨の降る中でのスタートだったが、イベントが進むにつれ秋晴れとなり、ダンスや演奏会、仮装大会などが行われ、たくさんの人で賑わった。ポスターやプライスカードも学生が工夫して作成したおかげで、たくさんの方々に商品を手にとって頂き大好評に終わった。

### 3. まとめ

昨年からイベントが復活し、今年もお声がけ頂きサークルが活動できることを嬉しく思う。昨年の出店を覚えていて下さった方々も居て下さり、2日間の販売で両日、また同日に何度も購入して下さるとい嬉しい状況を学生たちも体感出来た。商品が棚からなくなった瞬間は喜びと達成感に満ち溢れていた。

また、今年は他学科からもベーカリー塾に参加してくれている。違う分野を学ぶ学生たちとの交流は、いい刺激となり創造力を高め合うことが出来る。このような素敵な環境の中で活動が出来ることに感謝し、今後も様々なイベントに積極的に参加したい。



---

---

### (3) ヘキセンハウスの制作

生活学科 久保 晶路

#### 1. はじめに

びわ湖大津プリンスホテルより依頼して下さっているヘキセンハウスの制作も今年度で 11 年目を迎え、今年度も石井明教授の指導の下、ベーカリー塾の 2 回生が中心となり活動した。

#### 2. 活動内容

「笑顔あふれるサンタ村」をテーマに製作したヘキセンハウスは、12 月初旬からクリスマスまでの約 1 か月間ホテルのロビーに展示された。

小麦粉、砂糖、卵、バター、スパイス類を使用した生地を用いてヘキセンハウスを組み立てた。これまでにない八角形の 2 階建ての家と隣接する大きな家を中心に作成。アイシングでクリスマスツリーや家などを装飾しカラフルな家を作ったり、マジパンで作る動物やサンタの表情、プレゼントや野菜などは全てにストーリー性があり、正面だけではなく、どこから見ても楽しめる工夫がされている。学生がテーマを決め、イメージを膨らませながら制作し、完成させるまでに約 1 か月かかった。今年度も展示期間を延長し、12 月 26 日以降はお正月仕様に装飾を変え、1 月以降も展示された。

#### 3. まとめ

今年で 11 年目となったヘキセンハウスの制作活動は、ベーカリー塾の 1 年の集大成である。びわ湖大津プリンスホテルに立ち寄るお客様に楽しんで頂ける作品にするため、創造力や発想力を最大限に活かし、学生たちは取り組んでいた。今年度は 2 回生や部員全体の人数が少なく制作できる時間も少なかった。しかし、授業の空き時間を利用したり、自宅でコツコツと作品を作っていた。展示当日も朝から作業をし、部員全員が協力し合い、計画を立てて作業に取り組んでいたからこそ思い描くテーマを完成出来たのだと感じる。たくさんの方の目に留まり、1 つの思い出となる風景を作り上げられた達成感は、今後の自信にもつながるであろう。

今年もこのような貴重な機会を、ベーカリー塾の学生たちに与えて下さった琵琶湖大津プリンスホテルの方々に感謝するとともに、今後もこのような活動を通してたくさんの経験を与えられるよう努めたい。



## 4. 地域に向けた公開講座

### (1) 守山すみれ講座

#### 1) ストレッチで癒されて！

滋賀短期大学附属すみれ保育園 園長 木村 順子

#### 1. はじめに

筆者は今年度より附属すみれ保育園の園長として幼児教育に携わっている。前職は附属高校での体育科教員であり、保育の現場に移ってから子どもや保護者の健康に対する意識や身体バランスに注目している。この講座では、心地よさを感じて癒される感覚を自らが創り出すことをテーマにストレッチの前後で自分の感覚を確かめ、自分の身体の変化に気づけるようなプログラムで実施した。

#### 2. 活動内容

令和 5 年 9 月 3 日 (日) 午前 10 時から、すみれホールにて参加者 18 名で実施した。我々の身体にあるアーチに刺激を与えることで得られる、感覚の変化に着目した内容とした。足裏の他、腰部・頸部のみならず、膝裏、臀部、脇、体側など多くのアーチを刺激し、ストレッチ前（ビフォー）とストレッチ後（アフター）の感じ方を確かめることを意識した。またそれらのアーチが連動して動くことによりスムーズでしなやかな動きを引き出すことが出来る。ストレッチという“伸ばす”イメージが強いが、直線的に伸ばすのではなく、アーチを描きながら引き伸ばすことを意識させた。

- ① 片足立ちでのバランス・・ゆがみやふらつきは、潜在的能力により改善しようとするが、それが原因で“疲れ”を引き起こす。足裏のアーチをリメイクすることでバランスが良くなり、動きをしなやかに連動させることが出来る。
- ② 股関節骨盤周りのアーチリメイク・・正しい位置に骨盤があることで姿勢が良くなり、下半身と上半身のスムーズな連動を引き出せる。
- ③ 脊柱のアーチリメイク・・脊柱起立筋へのアプローチにより血流の改善が期待できる。脊柱を正しい S 字カーブにリメイクすることで姿勢改善を行える。脊柱上部のリメイクは、呼吸改善にも役立つ。
- ④ さする、揺らす、ほぐすなど、セルフマッサージを施すことで心地よい癒しを体感することが出来る。

#### 3. 総括

昨年に引き続いての参加者もおられ、自分の身体への関心度が高く、私の話熱心に耳を傾けられ、理論的にストレッチの効果を知ることができたことにより、ビフォーとアフターで、その違いに対する納得感も得られたようであった。自分の身体の声を聴き、ストレッチやマッサージを施すことで得られる心地よさを伝えられたと思う。アンケートでの受講者の声も好評であり、このような機会を与えていただいたことに感謝します。

---

---

## (1) 守山すみれ講座

### 2) からだと病気のしくみ

ビジネスコミュニケーション学科 田中 裕之

#### 1. はじめに

2023年9月24日(10:00-12:00), すみれ保育園(滋賀県守山市)において「からだと病気のしくみ」という題目で講演した。講演では, ここ3年間の新型コロナウイルス(COVID-19)問題を取り上げ, 感染症について医学的なトピックスを交えながら解説した。

#### 2. 講演内容

##### (1) ウイルスとは何者か?

ウイルスは, 人間の細胞よりずっと小さく, 肉眼では見えない。まず, ウイルスの大きさや物質的な特徴を解説した。ウイルスは, DNA もしくはRNA がタンパク質や脂質の殻の中に入ったもので, 単なる物質的な粒子ともいえる。また, ウイルスが細胞に付着・侵入したあと, 複製して増殖するメカニズムについて説明した。さらに, ウイルスで汚染されやすい公共の場所や物について, クイズ形式で一緒に考えていただいた。

##### (2) ヒトの免疫について

ウイルスに感染し, 発症するまでを概説した。新型コロナの感染者は, 世界で数億人規模にのぼった。私たちヒトの細胞にはこのウイルスが感染しやすいよう, あらかじめ受容体(レセプター)が用意されている。ウイルスが細胞に付着・侵入したあと, 複製して増殖するメカニズムについて説明した。また, これほどまでに速いサイクルで変異株が出現するしくみを概説した。

##### (3) 新型コロナウイルスに対する医療体制

新型コロナ感染症に対する基本的な医療戦略について概説した。また, PCR 検査, 抗原検査や抗体検査の目的の違いや, CT 画像検査でわかることについて説明した。今回, 感染制御の切り札として登場した, メッセンジャーRNA(mRNA) ワクチンについて, その開発経緯も含めて解説した。

#### 3. まとめ

本講座の開催直前, 阪神タイガースが38年ぶりの日本一を決めた。ファンであふれた大阪道頓堀のメディア映像を見ながら, ようやく日常を取り戻したという実感が湧いた人も多かったであろう。この度のパンデミックは, グローバル化が進み, 人間が互いに往き来し, 接触するサイクルが激増した当然の帰結ともいわれる。参加者の方々とは, 本講座で, コロナ問題が問いかけたものは何であるのかについて, 少し大きな視点から, あらためて考える時間を共有できたと期待する。最後に, 「天災は忘れた頃にやってくる」(物理学者で随筆家でもあった寺田寅彦の警句を肝に命じたい)。

---

---

## (1) 守山すみれ講座

### 3) ホスピタリティマインドを日常に

ビジネスコミュニケーション学科 穂 寛美

#### 1. はじめに

##### 「ホスピタリティマインドを日常に」をテーマに

地域の多くの方にお集まりいただき、ホスピタリティについて話をした。「ホスピタリティ」の定義をご理解いただくための講義を実施。ホスピタリティを提供すること、いわゆる、ホスピタリティマインドを備えることは困難だと考えがちな観念を取り除くべく、日常生活でもホスピタリティがあふれていることを理解いただく。そして、ケーススタディを通して、実感いただくことを目的とした。

#### 2. 活動内容

まずは、各個のホスピタリティ度の計測と称して、どれだけの日常の行動、例えば、挨拶・お礼・心配り等について問いかけた。その行動が、どのようにホスピタリティと結びつくかの話をした。その後、テーマとなるホスピタリティの概念を話し、さらに、事例について参加者の中でグループディスカッションと考察を行った。

最後には、ホスピタリティに関する動画を鑑賞し、多種の業界で多様な形のホスピタリティが、日常に提供されていることを確認した。

#### 3. 総括

講座では、ホスピタリティの概念と、人が提供できる上質の心のサービスであることの理解を深めた。

---

---

## (1) 守山すみれ講座

### 4) 寺内町金森

#### ～中世の宗教と共同体～

学長 秋山 元秀

## 1. はじめに

守山には金森(かねがもり)という集落があるが、ここは中世に浄土真宗の信徒たちが形成した寺内町(じないちょう)があったところで、守山の歴史を語るうえで欠かせないエピソードをもつ場所である。現在も集落全体にその面影が残っている。今回の講座では、この金森をとりあげ、それに関連して中世の信仰による共同体のありかた、なぜ金森に寺内町が生まれたのかについて考えた。

## 2. 活動内容

### (1) 浄土真宗の成立－鎌倉仏教の展開－

日本に仏教が入ってきた飛鳥時代から奈良時代になると、南都六宗というかたちでまとまった宗派の形をとった。これらの南都の諸派は、日本仏教の草創期において大きな力をもったが、その信者は特定の皇族や貴族に限られ、一般社会の庶民に対して影響力をもつものではなかった。

平安遷都を行った桓武天皇は、新京にふさわしい仏教の誕生を望み、最澄と空海という宗教的天才によって天台・真言という新仏教が生まれたが、それに帰依したのは奈良仏教と同じく、皇族・貴族階層で、様々な社会階層に広がったわけではなかった。しかしそののち、平安末期から鎌倉にかけて、法然、栄西、親鸞、道元、日蓮など、次代の日本仏教を背負う偉人が輩出した。なかでも親鸞は法然の浄土宗を継承しながらも、真正な浄土宗という意味で浄土真宗を起し、その子孫たちが宗派としての発展を図る。それが本願寺という形になって発展し、広く民衆の支持を得た。

### (2) 金森惣道場と寺内町金森

浄土真宗の寺院を中核に、あたかも小規模な城下町のように町場を内包し、対外的には防御機能をもった集落を寺内町という。この守山では、鎌倉時代に金森を支配していた川那辺厚春が本願寺5世法主の綽如に帰依し、金森は天台宗から浄土真宗を信奉するようになった。その子川那辺在貞の時代には金森惣道場が開かれ、さらにその子川那辺矩厚は、本願寺7世の存如に帰依し道西と名乗るようになった。この金森惣道場(金森御坊)を中心として集落を環濠と土塁で取り囲んだ寺内町が形成されたのは、この時代であると考えられている。

寛正6年(1465)、京都大谷の堂宇を比叡山僧兵によって追われた本願寺8世蓮如は、高弟であった道西のもとに身を寄せた。さらに、付近の門徒衆を結集し比叡山の山徒衆に反抗、これを金森合戦といい、史上初めての一向一揆であった。文明元年(1469年)には対岸の堅田へ移動するまで、金森が本願寺派の中心地として栄えたのである。

## 3. 総括

来聴者は多くが守山在住の方であったが、一部金森のことを知っていて、市外から来られた方もあった。限られた話題ではあるが、地域の歴史への関心を高めた効果はあったと考える。



---

---

## (1) 守山すみれ講座

### 5) 音楽会を楽しもう

#### ～みんなの好きな歌～

幼児教育保育学科 柚木たまみ・非常勤講師 遠藤 玲子

#### 1. はじめに

本講座は、令和5年12月9日(土)滋賀短期大学附属すみれ保育園に於いて、「子どもも大人も一緒に楽しむことのできる音楽会」をスローガンに掲げ、一般市民および子育て世代を対象として実施した。乳幼児同伴でも参加可能であり、参加者にリクエスト曲を募ったことが特徴である。リクエスト曲をプログラムに組み込むことにより、参加者が単なる受け身の聴衆ではなく、コンサートの作り手の一人となり、個にスポットが当たることにより充足感を得ることができる双方向型、参加型コンサートの実現を目指した。

#### 2. 活動内容

プログラムは全15曲(うち1曲はアンコール)からなり、そのうち10曲が参加者からのリクエスト曲である。残り5曲は時節を意識したクリスマスソングと、話題性があり、かつリクエスト曲とのジャンルが重ならない楽曲を選曲し構成した。18組計34名の参加者があり、9組が未就園、未就学の子どもの参加であったが、この子どもとその保護者という参加者からは、親子で遊ぶことのできる歌、子どもとの思い出の歌のリクエストが多かった。会場には椅子とマットを敷いたコーナーを設け、各々が自由なスタイルで参加できるようにした。楽器も準備し、楽曲ごとに身体表現と音楽表現を様々なかたちで行うことができるように計画した。以下にプログラム曲の一覧を記す。

1.さんぽ(久石譲) 2.グーチョキパーで何作ろう(フランス民謡) 3.キラキラ星(J.F.ラモー) 4.大きな栗の木の下で(イギリス民謡) 5.おもちゃのチャチャチャ(越部信義) 6.クリスマスメドレー:あわてんぼうのサンタクロース(小林亜星)～ジングルベル(J.ピアポント)～赤鼻のトナカイ(J.マークス) 7.うんこ(谷川賢作) 8.にじ(中川ひろたか) 9.ありがとうの花(坂田おさむ) 10.パプリカ(米津玄師) 11.見上げてごらん夜の星を(いずみたく) 12.翼をください(村井邦彦) 13.私には二人の恋人がいる(A.メサジェ) 14.糸(中島みゆき) アンコール:瑠璃色の地球(平井夏美) (下線部はリクエスト曲、()内は作曲者)。

#### 3. 総括

参加者アンケートでは、90%の「とてもよかった」の回答を得た。また、13件の自由記述回答を得ることができ、その内容は「演奏を楽しみ、子どもものびのびできた」「今回のような音楽会は初めてで楽しかった」「子どもと一緒にでも可能だと参加しやすい」という感想であった。一方、今後の希望として「親子参加可能なものと、大人だけのものの両方を行ってほしい」という声もいただいた。目的はほぼ達成できたと捉え、さらに様々なニーズに応えるための新たな課題をいただくことができた。

最後に、計画・実施において滋賀短期大学附属すみれ保育園に多大なご協力をいただきましたことに、心から謝意を表します。

## (2) 公開講座

### 1) 高校生のためのお菓子講座 ～お菓子の基礎を学ぼう～

生活学科 石井 明

#### 1. はじめに

高校生のためのお菓子講座ということで、作ってみたいと思うお菓子の中で作りやすいものを考え、フィナンシェ、パウンドケーキ(オレンジケーキ)、クッキーを作ることに決めた。実際に作って簡単にできて、美味しいものでなければ、今後お菓子づくりを続けてもらえないので、重要な講座である。お菓子づくりを好きになれるような講座を目指して開催した。

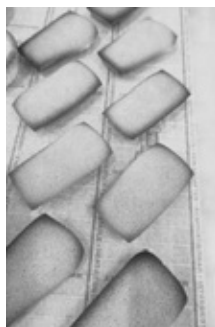
#### 2. 活動内容

高校生のためのお菓子講座は令和5年8月9日(水)に本学で開催した。グループワークで協力をし、コミュニケーションをとりながら、作業を進めてもらった。お菓子づくりで、今後にかしてもらえるようにフィナンシェでは味の部分で重要な焦がしバターの作り方や混ぜ方を学び、クッキーは生地混ぜ方や厚みを均一に伸ばす方法を学び、パウンドケーキでは、分離しないようにつくる方法や、なぜ分離してはいけないかを学んでもらえる内容にした。



#### 3. まとめ

参加者は13人と少なめだったが、一人一人が作業に携わる時間が多く取れ、結果的に良かった。3種類をつくる内容にしたので、大変だったかもしれないが、大変だった分達成感や満足感を味わってもらえたように思う。ちょっとしたコツは沢山あり、今後も伝えていきたいと思っている。



---

---

## (2) 公開講座

### 2) 子ども陶芸教室

～お皿とカップに陶画を描こう～

湖陶焼 長養窯 深田 猛

#### 1. はじめに

私は、子ども陶芸教室に、平成 27 年より携わっている。

一時の陶芸ブームといわれた頃からは少し熱はさめてはいるが、まだまだ関心を持っておられる方も少なくないようである。

#### 2. 活動内容

今回も、出来上がった素焼きの湯飲みとお皿に、顔料釉薬（赤、ピンク、水色、黄緑、黄色）と鉄顔料による茶色、大正黒の黒色、以上の七つの顔料を使って、自由に図柄を考え、色付けしてもらい、1,254 度の温度で焼成した。

#### 3. 総括

今回、情報化社会となって、自分の生活にアイデンティティを確立する事の難しい時代になったといえるかもしれない。

しかし、いつの時代も哲学する事が重要である。哲学と言っても先哲の後をたどるだけではない。手を動かし、物を作る事の中にこそ、本当の哲学があるのではないかと思っている。

人の手、指に触れ、視覚的にも触覚的にも手ごたえのある自分の行為の結果を実感、再確認する事によって得る情報は、真に人自らの生命活動をする上でのイメージ形成を作り出す重要な情報であると思っています。

これからも受講者一人ひとりのアイデンティティの支えになるような作品作りができ、また自分が作った湯飲みやお皿を使う楽しみを知っていただき、そういう表現、楽しみのお手伝いができれば幸いと願っている。



---

---

## (2) 公開講座

### 3) 子どもプログラミング教室

#### ～自動運転でクルマを走らせよう～

滋賀短期大学附属高等学校 教諭 杉本 侃哉

#### 1. はじめに

2020年度、小学校におけるプログラミング教育の必修化に始まり、2022年度には高等学校におけるプログラミング教育が必修化となった。その背景として、情報化やグローバル化により社会が大きく変化していく中で、人工知能 AI などの技術革新に伴い、将来、今ある仕事の半数近くが自動化されるという予想がある。このように変化が激しい社会を生き抜くために、プログラミング的思考を育成し、コンピュータを課題解決に活用できるようにすることが目的とされている。プログラミング的思考というのは、プログラミング言語を覚えてプログラマーを育てることだけではない。ここでいうプログラミング的思考というのは、自他の人生や生活を豊かなものにするために、地域課題や身近な生活上の課題を自分なりに論理的・創造的に考え解決していく力である。

#### 2. 活動内容

今回の活動内容は、決められたコースをゴールまで進むように、車を走らせるプログラミングを組んでもらうものであった。これは、上記で述べた「プログラミング的思考」を身につけるための導入部分であると考えている。プログラミング的思考が身につけていなければ、コンピュータがどれだけ便利であったとしても、コンピュータに自分の意志を伝えることができないため、効率的な課題解決にはならない。そのため、本講座ではプログラミングを楽しみとすることができるように、パズル感覚でプログラミングを楽しむことができる教材を選択した。プログラミングは答えが1つではなく何通りもの書き方が存在する。最短距離での回答が望ましいが、ただ1つの正解があるわけではない。周りの人と違っていいんだ、という意識を持ってもらうことが大切である。今回は、前回よりも個性的なプログラミングを書いてくれる子も多くいた。左折から直進をする場所では、頭を左に向けるのではなく、あえておしりを左に向けてバックで走行させるなど、車は前に進むものであるという固定概念にとらわれることなく、遊び心を加えたプログラミングは、私も次の動きを予想しながらわくわくした。全体的に、前回と同様、自分のグループを他者のグループと比較したりすることなく、集中して自分のチームのプログラミングに取り組んでくれていた。

#### 3. 総括

この講座を実施して2回目になるが、私自身が小学生のときには、プログラミングという言葉すら聞いたことがなかったが、今の小学生は、明らかにプログラミングというものを身近に感じているのと同時に、物事のとらえ方がとても柔軟になっているのではないかと感じた。プログラミングの授業が必修化されたことに伴い、今後もプログラミングに対する意識や技術向上だけでなく、プログラミング的思考の育成に期待したい。そして、高校での学びがより一層それを高度なものにしていくことができるよう、教育を作っていく必要があると感じた。

## (2) 公開講座

### 4) お菓子の講座

#### ～ドイツのお菓子～

生活学科 石井 明

#### 1. はじめに

令和5年8月24日(木)と8月30日(水)に一般の方対象で「ドイツのお菓子」を、両日同じ内容で開催した。初めて参加された方にもグループで作業しコミュニケーションをとってもらいながら参加者の皆様に楽しんでもらえるように行った。

#### 2. 活動内容

ドイツの菓子であるアイアシェッケとシュプリッツゲベックを作ってもらった。アイアシェッケはドイツの濃厚なチーズケーキで、底生地を空焼きし、その上にクリームチーズにアーモンドスライスとラムレーズンを入れた生地を入れ、カスタードクリームベースの生地を重ね、さらにその上にシュトロイゼル(クッキー生地)をのせて焼き上げてもらった。作業工程が多く手間がかかり、焼成時間も1時間程度かかるが、限られた時間内で焼き上がるように工夫して行った。シュプリッツゲベックはクッキー生地を絞り、フランボワーズジャムを中心に絞って焼き上げてもらった。生地はグループで作り、絞る作業は1人ずつ絞り、達成感を味わってもらえるように工夫した。



#### 3. 統括

予約で両日共満席となり、中には遠方から参加された方もあった。ドイツ菓子は美味しいお菓子が多いが見た目が華やかなお菓子は少ない傾向にある。アイアシェッケは地味だが美味しく焼き上がり、クッキーはフランボワーズジャムで華やかに仕上がった。参加された方には、喜んでもらえたので開催して良かった。今後もお菓子の講座を通して各国の伝統菓子を伝えていきたい。



## (2) 公開講座

### 5) アスリートのための食事講座

生活学科 豊岡 真莉

#### 1. はじめに

「アスリートの食事とお弁当づくり」と題し、アスリートが実践したい食事のとり方に関する講義と調理実習を行った。スポーツをするお子さんをお持ちの方やご自身がスポーツをされている方など 10 名にご参加いただいた。

#### 2. 活動内容

前半と後半の 2 部構成とした。前半は、「アスリートの食事の基本について」をテーマに、体づくりのためにとりたい栄養素や食事バランスに関する講義を行った。また、食事のモデルを活用し、食事の簡単なステップアップ法についてお話した。参加者に普段の悩みを共有してもらいながら進めることで、交流が深まり和やかな雰囲気で行うことができた。

後半の調理実習では、高校の部活生を想定したお弁当を作った。秋の生姜焼き、かぼちゃサラダ、カレー風味など 4 品を調理した。中でも特に好評をいただいたのは、ひじきのふりかけとかぼちゃサラダであった。実際に 1000ml のお弁当箱に詰めたところ「量に驚いた」といった感想が挙がった。その他、「簡単にできるものばかりでおいしかった」「ワンパターンのお弁当に新しいものを入れて嬉しい」「量や栄養のことがよくわかった」といった感想をいただいた。



#### 3. 総括

講義に加えて、同じ悩みをもつ参加者同士の交流や調理実習などの実践的な取り組みを行うことができ非常に有意義な時間となった。また、「学生さんとお話できて楽しかった」といった感想をいただき、学生と地域の方々とのつながりを深める点でもよい時間になったと考えられる。参加者の食事作りの一助になっていれば幸いである。





## 5. 高大連携事業

---

### (1) 滋賀県教育委員会の連続講座（2023年8月）

- 1) 2023年8月2日 10:40~12:10 滋賀短期大学  
食を通して世界を学ぶ～乳～ 中平真由巳（滋賀短期大学教授）
- 2) 2023年8月2日 9:00~12:00 滋賀短期大学  
お菓子づくりのコツと技術を学ぼう 石井 明（滋賀短期大学教授）
- 3) 2023年8月2日 10:15~11:45 滋賀短期大学  
子どもの言葉と絵本・あそびうた 松村都子（滋賀短期大学准教授）
- 4) 2023年8月2日 9:00~12:10 滋賀短期大学  
高校生のための金融リテラシー 小山内幸治（滋賀短期大学特別教授）
- 5) 2023年8月2日 13:20~14:50 滋賀短期大学  
臨床検査と医療費 沖山圭子（滋賀短期大学教授）  
田中裕之（滋賀短期大学教授）
- 6) 2023年8月2日 10:40~12:10 滋賀短期大学  
ドレスデザイナー体験をしましょう 河村梨花（滋賀短期大学特任講師）
- 7) 2023年8月2日 13:20~14:50 滋賀短期大学  
プロジェクトマッピングの仕組み 小笠原寛夫（滋賀短期大学講師）

### (2) 滋賀県等の高等学校への出前授業（2023年1月~2023年12月）

- 1) 2023年1月27日 大江高校  
保育の中の音楽 柚木たまみ（滋賀短期大学教授）
- 2) 2023年1月30日 長浜北高校  
食を通して世界を学ぶ 中平真由巳（滋賀短期大学教授）
- 3) 2023年3月14日 湖南農業高校  
子ども学ってなあに？ 保田恵莉（滋賀短期大学特任教授）
- 4) 2023年3月14日 大津高校  
炭水化物ってなんだろう 豊岡真莉（滋賀短期大学特任助教）
- 5) 2023年3月14日 大津高校  
ウッドピンチアレンジ 河村梨花（滋賀短期大学特任講師）
- 6) 2023年3月23日 長浜北星高校  
食を通して世界を学ぶ 中平真由巳（滋賀短期大学教授）



- 
- 
- 7) 2023 年 4 月 14 日 大津高校  
ウェディングとお色直し 菘 寛美 (滋賀短期大学特任准教授)
  - 8) 2023 年 7 月 14 日 八幡商業高校  
食と健康について考える 灰藤友理子 (滋賀短期大学講師)
  - 9) 2023 年 7 月 18 日 京都精華学園高校  
ChatGPT を使ってビジネスの問題を考える 小山内幸治 (滋賀短期大学特別教授)
  - 10) 2023 年 9 月 12 日 石部高校  
スポーツと食事 灰藤友理子 (滋賀短期大学講師)
  - 11) 2023 年 9 月 12 日 石部高校  
自分の消費エネルギーを知ろう 灰藤友理子 (滋賀短期大学講師)
  - 12) 2023 年 9 月 21 日 伊吹高校  
炭水化物ってなんだろう 豊岡真莉 (滋賀短期大学特任助教)
  - 13) 2023 年 9 月 21 日 大津高校  
子どもの音遊び 松井典子 (滋賀短期大学准教授)
  - 14) 2023 年 9 月 26 日 大津高校  
子どもの成長と音楽 柚木たまみ (滋賀短期大学教授)
  - 15) 2023 年 9 月 28 日 大津高校  
子どもの音遊び 松井典子 (滋賀短期大学准教授)
  - 16) 2023 年 10 月 6 日 近江高校  
ビジネスで人や地域を元気にしよう！ 江見和明 (滋賀短期大学教授)
  - 17) 2023 年 10 月 25 日 守山北高校  
遊びの中の学びってなに？ 久米央也 (滋賀短期大学教授)
  - 18) 2023 年 11 月 9 日 彦根翔西館高校  
食を通して世界を学ぶ 中平真由巳 (滋賀短期大学教授)
  - 19) 2023 年 12 月 8 日 栗東高校  
作ってあそぼう 三上佳子 (滋賀短期大学准教授)
  - 20) 2023 年 12 月 13 日 八幡高校  
炭水化物について 豊岡真莉 (滋賀短期大学特任助教)
  - 21) 2023 年 12 月 19 日 南丹高校  
食を通して世界を学ぶ 中平真由巳 (滋賀短期大学教授)

---

---

### (3) 大学見学受け入れ時の講座（2023年1月～2023年12月）

- 1) 2023年4月28日 彦根工業高校  
プロジェクトマッピングの仕組み 小笠原寛夫（滋賀短期大学講師）
- 2) 2023年9月15日 彦根総合高校  
ビジネスマナーを身につけよう 若生真理子（滋賀短期大学特別准教授）
- 3) 2023年12月15日 栗東高校  
子どもと遊び 三上佳子（滋賀短期大学准教授）

### (4) 公開講座（高）（2023年8月）

- 1) 2023年8月9日 滋賀短期大学  
お菓子の基礎を学ぼう 石井 明（滋賀短期大学教授）

2023年6月20日(火) 読売新聞(滋賀版)

「NIE 新聞」  
 教育に  
 学校など  
 で新聞を教  
 材として活  
 用する「N  
 IE(教育  
 に新聞を)」活動の普及に  
 取り組む県NIE推進協議  
 会の総会が19日、大津市内  
 で開かれた。

## 今年度の実践校決まる 推進協総会 申請 枠満たさず



県内のNIEの現状に対する意見を述べる秋山会長(大津市で)

参加。県の六つの実践校枠に対し、今年度は申請が5校にとどまったことを受け、会長の秋山元秀・滋賀短期大学学長は「枠に満たないのはさみしい」と。協議会の方から学校へ働きかける必要がある」との見解を示した。

総会では、NIE公開授業や新聞社見学など今年度の事業計画が発表され、秋山会長を再任する役員人事も了承された。

今年度のNIE実践校は次の通り。

- ▽滋賀県大津市立唐崎小▽高島市立岩倉小▽彦根市立西中▽県立護国学校▽県立長浜北星高

2023年12月8日(金) 産経新聞(滋賀版)

お菓子のサンタ村お目見え  
 大津プリンスホテル 滋賀短大生が制作

プレゼントを抱えたサンタが、楽しみに待つ動物たちのもとへ。びわ湖大津プリンスホテル(大津市におの浜)のロビーに7日、地元滋賀短大生が制作したお菓子のクリスマスステコレーションが登場した。コロナ禍で寂しかったサンタ村に元の暮らしが戻ってきた喜びを表現した。

滋賀短大生によるお菓子のクリスマスステコレーションは今年で11回目。同ホテルの料飲部門支配人が同大の非常勤講師をしていた縁で始まり、来館者を毎年楽しませている。

今年のテーマは「笑顔あふれるサンタ村」。同大のパン・スイーツ研究サークル「ペーカリー塾」の部員約10人が手掛けた横180センチ、奥行90センチ、高さ60センチの大作で、材料はバター3・5キロ、砂糖14キロ、卵3・5キロ、小麦粉9キロなど、とんがり屋根の大きなお

## 各地でクリスマススムード



クリスマスステコレーション「お菓子の家」を仕上げる滋賀短大の学生。大津市におの浜のびわ湖大津プリンスホテル

菓子の家を中心に、サンタのアレセントや果物などを載せたトロッコ列車がぐるり一周。ウサギやパンダ、リスなどの動物がサンタと遊んだりファンタスティックな世界が見る人をほっこりさせる。ペーカリー塾部長で2回生の戸根真歩さんは「動物とサンタの楽しい時間を共有してもらえたら」と話していた。

滋賀短大の学生が制作したお菓子の家＝大津市におの浜のびわ湖大津プリンスホテルで



## びわ湖大津プリンスホテル 滋賀短大生8人が制作

クリスマスにちなんだ「お菓子の家」が、大津市におの浜のびわ湖大津プリンスホテルに登場した。滋賀短大（同市竜が丘）の学生8人が制作。25日までホテルのロビーで楽しめる。  
（和泉萌花）

# サンタの村を お菓子の家に

クッキーでできた色とりどりの家や列車、アーモンドと砂糖を練り合わせた「マジパン」のサンタクロースや贈り物、動物。一面の雪化粧も、卵白と砂糖でできている。

横180センチ、縦90センチの「笑顔あふれるサンタ村」には、家の屋根の模様や列車の柄といった細部までこだわった本物そっくりの洋菓子が並ぶ。材料にはバター13・5センチ、砂糖14センチ、小麦粉9センチなどを使用している。

パンや菓子作りをするサークル「ペーカリー塾」が制作した。11月初旬から構想を練り始め、学校で生地

作りからクッキーなどの部品作りまでをし、21日からホテルで組み立てを開始。クッキーが割れて作り直すこともあったというが、12月7日に完成して、お披露目された。

部長の戸根真歩さん（19）は「ホテルの『煌めき』のテーマに合わせた。家のデザインやかわいい動物をぜひ見てほしい」と笑顔を見せた。ホテルでの展示は2013年に始まり、11回目。セールス&マーケティング部門の半田悦子支配人は「ロビーが華やかになる。地域とつながる機会になってうれしい」と話した。

お菓子村の  
サンタさん

### 滋賀短大生制作 ホテルロビー彩り

**大津** 滋賀短期大（大津市竜が丘）の学生らが作成した「お菓子の家」がびわ湖大津プリンスホテル（同市におの浜4）に登場し、ロビーに彩りを添えている。25日まで。

縦90センチ、横180センチの大作で、クリスマスに合わせて、クッキーを使った家や列車、アーモンド粉などを練り込んだ洋菓子「マジパン」で作ったサンタクロースや動物などが並んでいる。

同短大の産学連携の一環で、パン・スイーツ研究サークル「ペーカリー塾」の学生ら8人が約3週間かけて作成した。テーマは「笑顔あふれるサンタ村」。新型

コロナウイルス禍が収まり、かつての日常生活が戻ってきた喜びをイメージした。星形のクッキーを組み合わせてクリスマスツリーを作成したほか、列車が走っているように見せるため、クッキーを線路に見立てて敷き詰めるなど細かい所まで工夫されている。

クッキーが割れて焼き直す事もあったが、皆で協力して乗り切ったという。同サークルの戸根真歩部長（19）＝守山市＝は「完成できて良かった。屋根や家のデザインがそれぞれ違うのを見ていただければうれしい」と笑顔で話した。

【菊池真由】



ホテルのロビーで展示されるお菓子の家を眺める滋賀短期大の学生ら  
＝大津市におの浜4で

---

## 地域連携年報 第十号

令和6年3月31日

滋賀短期大学 地域連携教育研究センター

〒520-0803 大津市竜が丘24-4

TEL 077-524-3605 FAX 077-523-5124

---

SUMiRE